

■ 小中一貫校設立に関する資料

越谷市教育委員会

令和 2 年 9 月

～ 目 次 ～

【1】越谷市における小中一貫教育	1
【2】小中一貫校の設立地について	3
【3】3 学園構想の概要	4
【4】計画期間について	5
【5】蒲生学園（仮称）	7
【6】川柳学園（仮称）	11
【7】明正学園（仮称）	15

【1】越谷市における小中一貫教育

越谷市では、平成27年度から「夢に向かって輝く子どもの育成」を目指し、市内全小中学校を中学校区の15ブロックに分け、小中一貫教育に取り組んできました。

小中一貫教育は、9年間のつながりを意識した学習指導や生徒指導によって、様々な教育効果を生み出す制度として、現在も全国各地で地域の実情に応じた取組が進められています。実際に、本市でも5年間に渡る取組を通じて、児童生徒の学力の向上や自己肯定感の高揚、中1ギャップの解消等、多くの成果や児童生徒の変容を見ることができました。

01 **夢に向かって輝く子どもの育成**
Mission (使命)

02 **越谷の子どもを9年間で育てる**
Vision (目指すべき状態)

学力向上

中1ギャップの解消

自己肯定感の高揚

03 **<3つの切り口>**
Values (考え方や姿勢)

- 授業改善
- 学級・学年経営改善
- 積極的な生徒指導

04 **全校一斉小中一貫教育研究指定**
Strategy (戦略)

05 **市内中学校区の取組**
Tactics (戦術)

中学校区を目指す児童生徒
重点目標の設定・共有

組織づくり

児童生徒交流

教職員交流

家庭・地域連携

生活規律の共有化	学習規律の共有化	学習過程の工夫	板書計画の習慣化	ノート指導の統一化	家庭連携・家庭学習の統一化	学習形態の工夫と共通理解
単元配列表、系統図の活用	「書く」活動の重視	合同教科部会の開催	学習指導要領への系統化の記述	授業研究会への相互参加	学習カードの共有化	合同生徒指導部会・合同教育相談部会の開催
合同あいさつ運動の実施	小中連携マンスリーへの学生の参加	運動部活動交流(以上大学、ふたつ一大学の参加)	生徒会役員による中学校生活の説明	部活動体験入学の実施	一斉防災訓練、安全教育の共通化	小中連携の連携(2校小連携1校中連携)

小中学校で授業の進め方が同じで安心した。(中1)

中学生が身近な存在に感じるようになった。(小学生)

中学校進学への不安が解消された。(小6)

部活動の選択がスムーズに行えた。(中1)

中学校の様子がイメージできるようになった。(小6)

小中学校間で豊かな情報共有ができるようになった。

安心して進級・進学できる子どもが増えた。

9年間の児童生徒の実態や発達段階が分かることで、学習指導や生徒指導に生かせる。

学習規律・学習意欲が向上し、授業形態を工夫することができるようになった。

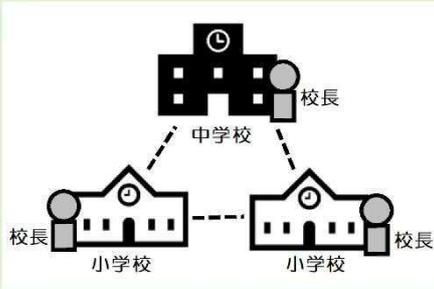
※平成28年度研究委属校児童生徒アンケート及び研究成果より抜粋

こうした中、小学校と中学校の学区を一致させることや、9年間の指導の枠組みをこれまでの小学校6年／中学校3年から、小学校1～4年／小学校5年～中学校1年／中学校2～3年とし、それぞれの段階で特色ある教育活動を行ったりすること、さらには地域とのつながりを深めたりすることで、より一層効果的な小中一貫教育ができることが全国における先進事例の研究で明らかになってきました。

このような背景から、本市では小中一貫教育をさらに深化させるべく、小学校と中学校の学区を一致させ、地域とより協働的な教育活動がしやすいとされる、いわゆる「小中一貫校」の設立を目指すこととしました。

第1期小中一貫教育が一定の成果を上げたことを受け、令和2年度からの第2期小中一貫教育では、9年間の義務教育期間を通して、学校・家庭・地域が連携・協働した学校教育の実現を目指します。より効果的に達成するための方策として、市内初の小中一貫校を設立し、小中一貫教育の推進に取り組んでいきます。

現在



【小中一貫教育研究校】

- ▶ 校長は各小中学校 1 人
- ▶ 小学校 6 年間+中学校 3 年間
- ▶ 6-3 制による指導の枠組み
- ▶ 9 年間で育む児童生徒像を小中学校で共有

準備 ≡ 移行

今後



【小中一貫校】

- ▶ 校長は各小中学校 1 人
- ▶ 小学校 6 年間+中学校 3 年間
- ▶ 4-3-2 制による指導の枠組み
- ▶ 統括校長を中心とした教育方針の統一
- ▶ 小学校高学年における一部教科担任制の導入
- ▶ 小中学校の学区域が一致
- ▶ コミュニティ・スクール※の推進
- ▶ 9 年間を通じた教育課程を地域とともに創造

※ 学校運営協議会(保護者や地域住民の入った会議)で、保護者・地域が一体となり、児童生徒の豊かな成長を支えていく仕組みのある学校。

学校、家庭、地域が連携・協働した学校教育の実現



【2】小中一貫校の設立地について

下の図のように、現在市内には30の小学校と15の中学校があります。小中一貫校の設立候補地の選定にあたっては、市内施設の老朽化対策の推進を目的として策定された「越谷市公共施設等総合管理計画」や各地区における現状や課題、目標や将来像をまとめた「地区まちづくり会議提言書」等をもとに検討を重ね、蒲生地区・川柳地区を市内初の小中一貫校設立地としました。



※枠線は「【1】越谷市における小中一貫教育」の冒頭で触れた中学校区15ブロック

【3】 3学園構想の概要

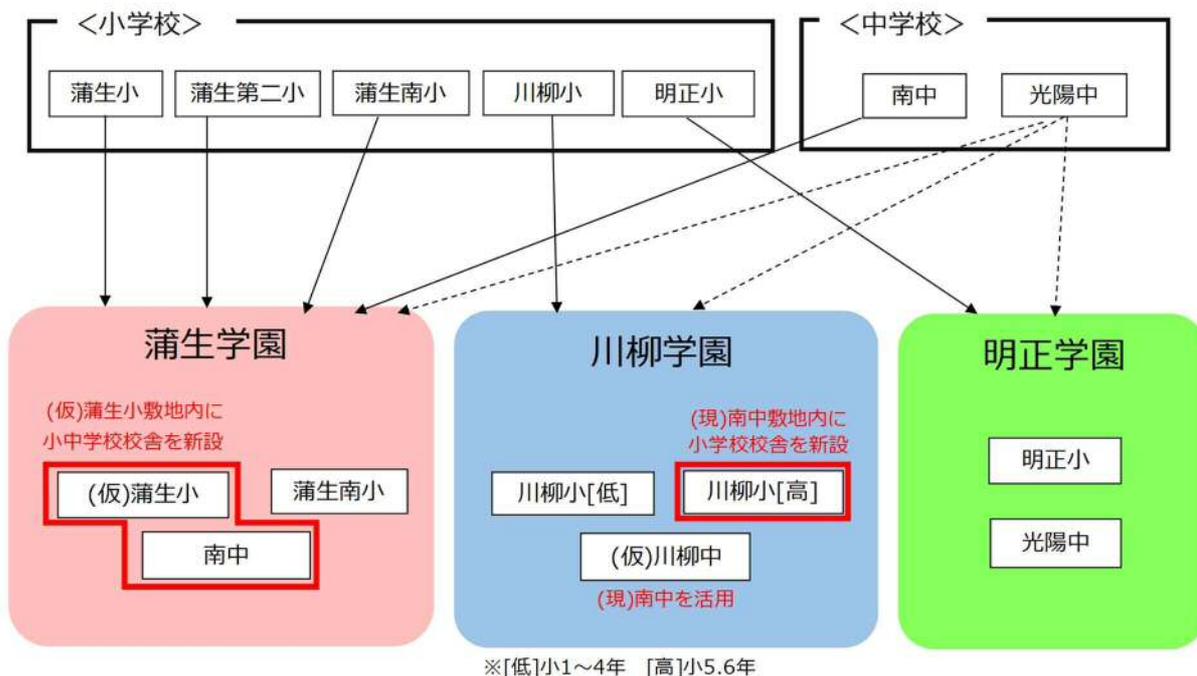
本構想は、さらなる小中一貫教育の推進に向け、より効果の高いとされる小中一貫校を市内で初めて設立する構想であり、対象となる学校は小学校5校・中学校2校です。今後、小学校の合併や中学校の新設を経て、令和8年度には小学校4校・中学校3校が3つの小中一貫校としてスタートします。

なお、本資料内においては、この取組を以降「3学園構想」、各小中一貫校を「〇〇学園」と仮称で表記し、各学園の見分けをつきやすくするために、便宜上、色を分けています。学校名等については、合併する蒲生小・蒲生第二小は(仮)蒲生小、新設される中学校については(仮)川柳中と記載しています。今後、地域の方々の意見を踏まえて具体的な検討を行う予定であり、学園の配色は仮のものです。

蒲生学園・・・蒲生小と蒲生第二小を合併し、光陽中のうち蒲生小卒業生は、学区改編によって南中へ進学する。蒲生南小を加え、小学校2校と中学校1校による小中一貫校。

川柳学園・・・小学校1年生から4年生までは現在の川柳小に通い、5年生からは現南中敷地内に新設した小学校高学年校舎へ通学する。光陽中のうち川柳小卒業生は、学区改編によって(仮)川柳中へ進学する。小学校1校と中学校1校による小中一貫校。

明正学園・・・蒲生学園と川柳学園の開校に伴い、明正小の卒業生のみが光陽中に進学する。小学校1校と中学校1校による小中一貫校。



【4】 計画期間について

越谷市の小中一貫教育を次の段階へステップアップさせると同時に、以下のような諸課題等への対応も考慮し、3学園構想は令和2年度から令和8年度までの計画としました。

① 学校施設の老朽化

施設解体予定である蒲生小及び蒲生第二小は、いずれも昭和38年^{※1}の建築から既に50年以上が経過しており、現在市内にある小中学校の中では、越ヶ谷小に次いで2番目に古い建物となっています。

② 川柳小の児童数増加

下表のように、川柳小における児童数は今後7年間で2倍以上に増加し、令和6年度には現在の小学校の施設規模を超えると推測しています。なお、3学園構想に伴う施設が新設され、実際に移動ができるまでの期間は、仮設教室による対応を想定しています。

川柳小児童数推計表 (令和2年8月1日現在)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
児童数(人) ^{※2}	693	813	947	1,090	1,242	1,347	1,494
不足教室数(室)					4	7	11

川柳小児童数の増加対策については、以下のような案を検討しました。

- ▶ 学区改編及びスクールバス導入 ⇒ ✕
(理由)通学距離や人数の問題等から実現不可能なため
- ▶ 校庭面積を狭めずに校舎を増築するため、体育館とプールを重層化 ⇒ ✕
(理由)体育館上部へのプール建設は施設強度の関係上難しく、その場合は体育館の地下にプールをつくる必要があり、コスト面の課題が大きい
- ▶ 新たな小学校の建設 ⇒ ✕
(理由)開発の進んだレイクタウンエリアにおいては十分な学校用地の取得が困難なため
- ▶ 蒲生地区の小中一貫校建設と併せて、高学年校舎を新設 ⇒ ◎
(理由)先進的な小中一貫教育施設のモデルとして、小中一貫教育をさらに推進できるとともに、施設老朽化や児童数増加等への対応も同時に可能となるため、費用対効果大きい

※1 蒲生第二小は昭和44年に蒲生小から分離し開校したが、施設は当時の中学校校舎をそのまま活用している。

※2 令和2年8月1日現在の住民登録数に基づく推計であり、市外からの転入等による新たな社会増は加味していない。

3 学園構想工程表

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
蒲生学園	蒲生小	◆合併に向けた合併地域準備会 (1月～) ◆学園設置に向けた地域準備会 (1月～)	■仮設教室建設 (蒲生第二小敷地内)	◎蒲生・蒲生第二小合併 仮設教室供用開始	■蒲生小解体 (体育館除く)	■蒲生第二小・仮設教室解体 (体育館・プール含む)	蒲生学園開校
	蒲生第二小						
	蒲生南小						
	南中						
川柳学園	川柳小	◆学園設置に向けた地域準備会 (1月～)	■仮設教室建設 (現川柳小敷地内)	仮設教室供用開始	高学年校舎建設 (現南中敷地内)	■高学年校舎供用開始	川柳学園開校 (仮)川柳中開校
明正学園	光陽中	◆学園設置に向けた地域準備会 (1月～)	卒業生 (R5) (蒲生小)			卒業生 (R8) (川柳小)	明正小卒業生 明正学園開校
	明正小						

【5】 蒲生学園(仮称)

1、蒲生学園のカリキュラム

Concept(案)

* 今後、学校と連携しながら内容をさらに検討します。

コミュニティ・スクール^{※1}による学校と地域一体型のカリキュラム

- 〈目指す児童生徒〉 地域を知り、地域に貢献できる児童生徒を育む
- 〈キャッチフレーズ〉 『蒲生で育つ 蒲生を守る 人にやさしい蒲生』
- 〈特色のある教育〉 郷土で学ぶことを土台に、防災教育・福祉教育・キャリア教育^{※2}を中心に9年間を通す指導計画のもと、地域に貢献できる児童生徒を育みます。
- 〈9年間を通す指導〉
1～4年生: 蒲生地区を知り、蒲生地区の人々をつながることを重視
5～7年生: 蒲生地区や異学年の交流活動を組み、小中学校の円滑なつながりを重視
8・9年生: 地域防災訓練や福祉施設での体験活動など地域に貢献できるようなつながりを重視

【カリキュラム活動例】

8・9年

教科担任制^{※3} 8・9年生の地域参加の教育 【地域のために考え行動する】
表現や発信を大切にする教育活動 1～4年生との交流活動

- | | |
|----------|------------------------------------|
| (防災教育) | ○地域防災訓練への参加 避難所運営学習 普通救命講習の受講 |
| (福祉教育) | ○やさしい町蒲生への提言や施策を考えプレゼンする |
| (キャリア教育) | ○保育士から学ぶ(キャリア教育と命の大切さを考える) ○高校との交流 |
| | ○人権教育と主権者教育 ○起業家教育 |

5～7年

5・6年生の一部教科担任制、7年生からは教科担任制 【地域の思いを知る】
中学校教員の5・6年授業への一部参加 5・6・7年生児童生徒の交流活動

- | | |
|----------|-------------------------------------|
| (防災教育) | ○日本や越谷市の災害を考える ○災害時に自分ができていることを考える |
| (福祉教育) | ○高齢者・障がい者福祉施設で活動、パラスポーツ選手との交流 ○点字体験 |
| (キャリア教育) | ○5DAYS(地元で職業体験) ○自分の将来の夢 |

1～4年

学級担任制 地域を素材に基礎基本を学ぶ 【地域とつながる】
具体的な活動や体験的な活動を中心に実感する学習

- | | |
|----------|---|
| (防災教育) | ○地域防災を考える ○市役所の働きを調べる ○通学路の安全を調べる |
| | ○けがの応急手当(初級救命講習)受講 ○自助・共助・公助を考える |
| (福祉教育) | ○高齢者福祉施設との交流 ○ユニバーサルデザインを考える ○手話体験 |
| (キャリア教育) | ○幼稚園や保育所との交流 ○商店との交流 |
| 【土台として】 | ○学校探検、地域探検・調査(地域の人とつながる) ○蒲生地区の伝統文化 |
| | ○越谷・地域の偉人 ○学区で働く人を調べる(スーパーマーケット 警察 消防 工場 農家等) |

【用語の説明】

※¹コミュニティ・スクール…学校運営協議会(保護者や地域住民の入った会議)で、教育活動について知恵を出し合い、保護者・地域が一体となり、児童生徒の豊かな成長を支えていく仕組みのある学校。

※²キャリア教育……望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育。

※³教科担任制……中学校で行われている制度で、教科ごとに教える教員が変わる。小学校ではクラス担任がほぼ全教科を教える。

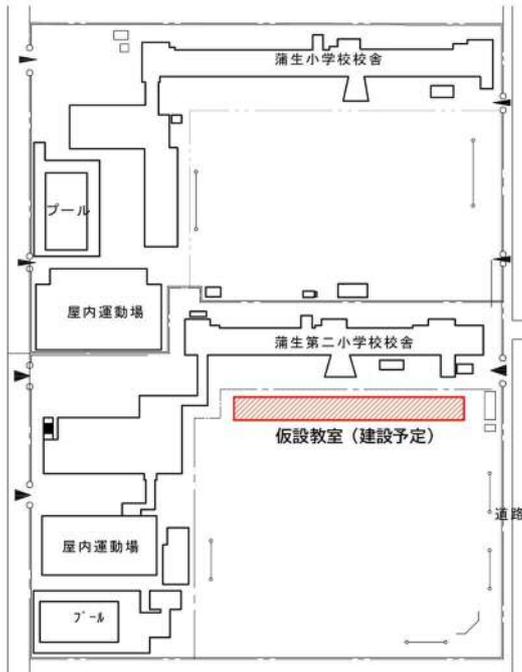
2、蒲生学園設立に向けた準備について

蒲生学園の設立に向けて、校舎や校庭の整備のほか、学区の改編を検討します。

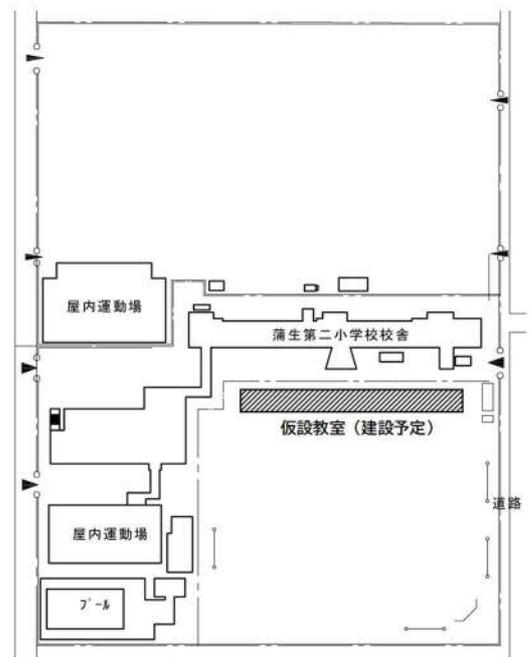
【施設整備イメージ】

※施設の形状や大きさはイメージであり、変更の可能性があります。

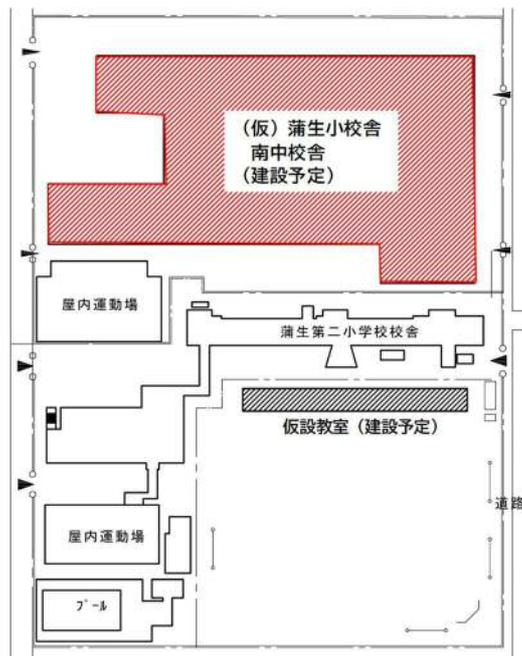
①蒲生第二小の敷地に仮設教室を設置する。



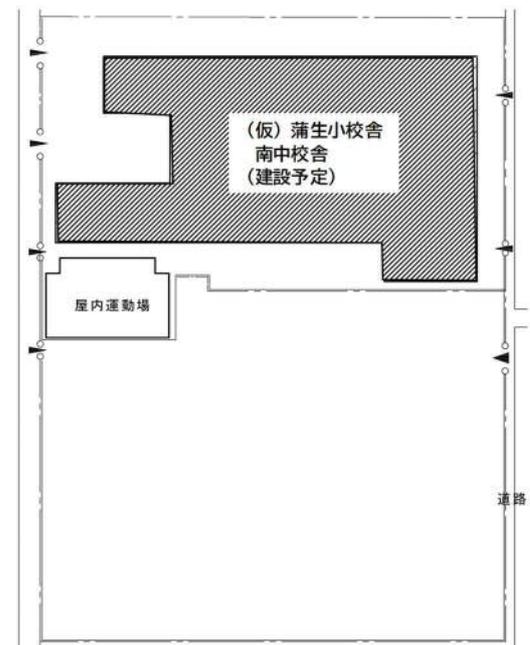
②蒲生小の校舎を解体する。



③新たに小学校と中学校の校舎を建設する。



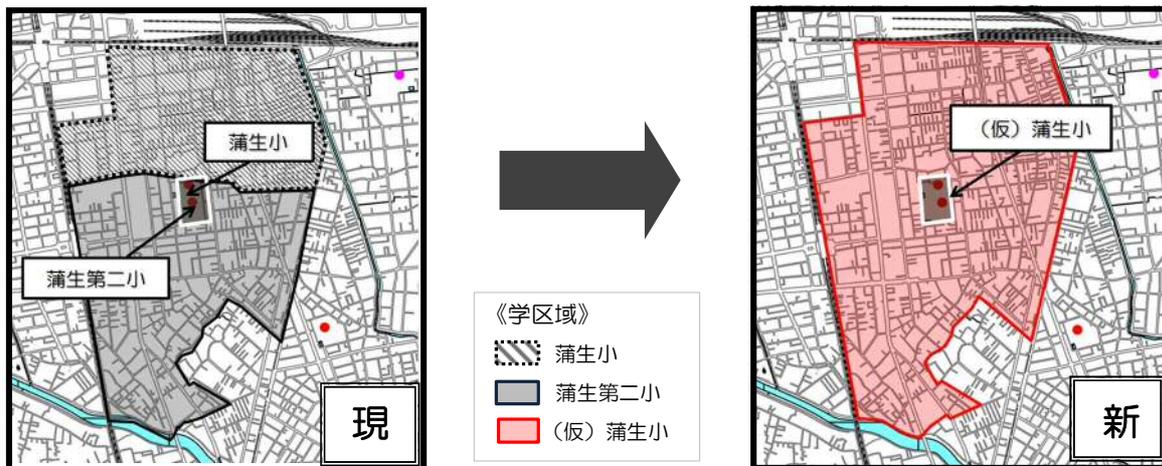
④蒲生第二小の校舎を解体し、校庭を整備する。



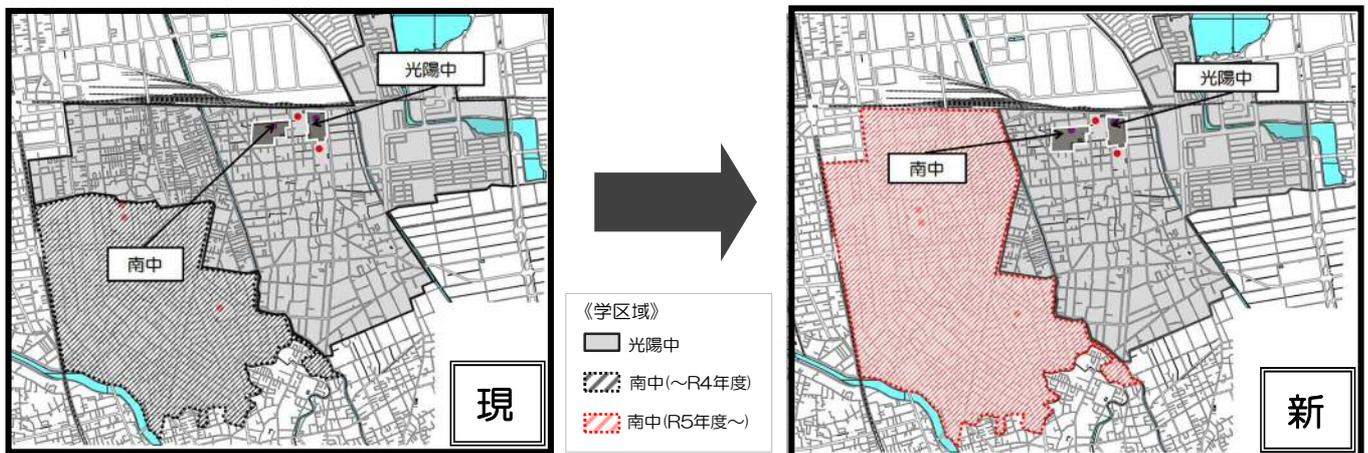
【学区改編案】

今後、越谷市小中学校学区審議会において、以下のように学区改編案について審議いただく予定です。

対象校名	内容	時期
蒲生小 蒲生第二小	令和4年度に蒲生小と蒲生第二小が合併し、(仮)蒲生小となる。それにあわせて、蒲生小学区全域と蒲生第二小学区全域を(仮)蒲生小学区へ改編する。	令和4年4月1日



対象校名	内容	時期
南中	令和4年度に蒲生小と蒲生第二小が合併し、(仮)蒲生小となる。現在の蒲生小の進学先は光陽中であることから、現行のまま運用すると(仮)蒲生小の進学先が分割されてしまう。このことから、令和5年度から光陽中学区の一部(蒲生小卒業生)を南中学区へ改編することが望ましい。	令和5年4月1日



3、蒲生学園構想全容

隣接する蒲生小と蒲生第二小を令和4年4月に合併し、蒲生第二小敷地内に蒲生小の児童を一時的に移動させることで、令和4年度に蒲生小校舎を解体します。これにより、市内小学校数が1校減少します。解体後、蒲生小敷地に小学校と中学校の校舎を新設し、南中の生徒を移動させることで、令和8年度を目途に市内初の小中一貫校を設立する構想です。

なお、蒲生南小については、現在の校舎を引き続き使用し、中学入学時の合流を想定しています。



【6】川柳学園(仮称)

1、川柳学園のカリキュラム

Concept(案)

* 今後、学校と連携しながら内容をさらに検討します。

多文化共生^{※1} 社会を生きる人財を育む ～ 越谷と世界 ～

- 〈目指す児童生徒〉 地域・日本を知り、世界へ発信できる児童生徒を育む
- 〈キャッチフレーズ〉 『人とつながる ともに生きる 人にやさしい川柳』
- 〈特色のある教育〉 英語教育・国際交流を重視した9年間を通す指導計画のもと、防災教育・福祉教育・環境教育・キャリア教育等を中心に世界へ発信できる児童生徒を育みます。
- 〈9年間を通す指導〉 1～4年生:川柳、越谷、日本について知り、地域の人々とつながることを重視
5～7年生:中学校英語教員も参加する英語教育の充実と、姉妹都市との交流や外国の文化・習慣等について知る学習を重視
8・9年生:大学と連携した留学生との交流、姉妹都市キャンベルタウンの生徒との交流等を行い、世界へ発信できる生徒

【カリキュラム活動例】

8・9年

教科担任制^{※2} 8・9年生の地域参加の教育【人のために考え行動する】
表現や発信を大切にする教育活動 1～4年生との交流活動

- (国際理解教育) ○文教大学・埼玉県立大学等と連携し、英語を使って学生や留学生と交流
○英語で地域の外国人や姉妹都市キャンベルタウンと交流
- (環境教育) ○日本と世界の環境問題について知る ○地域防災訓練への参加
○エネルギー 食糧問題 3R 地球温暖化 生活環境 自然環境
- (キャリア教育) ○健康と食育 共生と協働 ○地域の方とともに社会参加活動
○高校との交流(進路学習)

5～7年

5・6年生の一部教科担任制、7年生からは教科担任制【人の思いを知る】
中学校教員の5・6年授業への一部参加 5・6・7年生児童生徒の交流活動

- (国際理解教育) ○英語教育の充実 ○外国の学校との関わり ○姉妹都市キャンベルタウンとの交流
○世界遺産・世界の食・民俗・習慣・歴史と伝統を知る国際理解教育
○日本の文化を知る 伝統文化
- (福祉教育) ○福祉教育 バリアフリー ユニバーサルデザイン ○ボランティア活動

1～4年

学級担任制 地域を素材に基礎基本を学ぶ【人とつながる】
具体的な活動や体験的な活動を中心に実感する学習

- (国際理解教育) ○地域の人や保護者、ALT^{※3}との関わり ○川柳のお祭り ○昔遊び
○日本の文化に係る仕事をしている人との関わり ○地区にある伝統への気づき
○民俗伝承 埼玉県の自然環境 特産物 郷土料理 ○越谷・埼玉県の偉人 ○外国語活動
- (防災教育)
【土台として】 ○地域の防災対策を知る 自助・共助・公助を考える
○レイクタウン地区の自然環境 ○学校探検、まち探検
○交通 学校 地区の土地利用、地形、古くから残るもの
○地域に暮らす様々な職業の人との出会い

【用語の説明】

- ※¹ 多文化共生……国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員としてともに生きていくこと。
- ※² 教科担任制……中学校で行われている制度で、教科ごとに教える教員が変わる。小学校ではクラス担任がほぼ全教科を教える。
- ※³ ALT……外国語を母語とする国の出身で、小学校や中学校の英語の授業において教員の補助を行う外国語指導助手のこと。

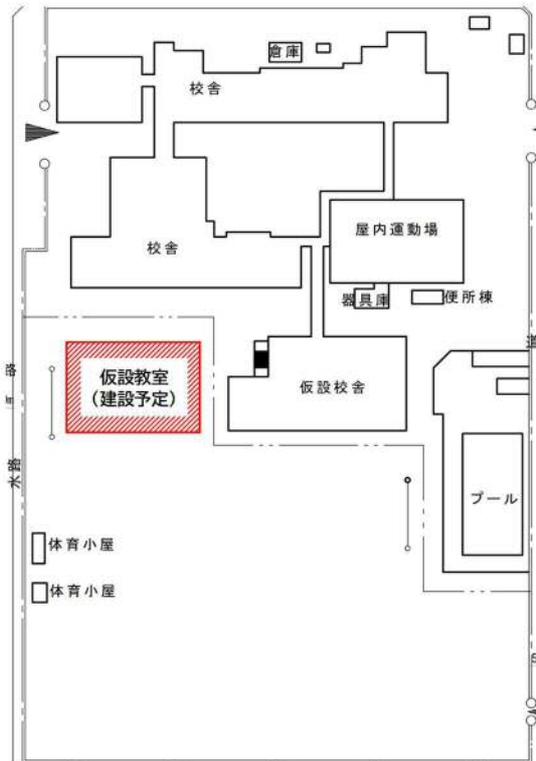
2、川柳学園設立に向けた準備について

川柳学園の設立に向けて、校舎や校庭の整備のほか、学区の改編を検討します。

【施設整備イメージ】

※施設の形状や大きさはイメージであり、変更の可能性があります。

①川柳小の敷地に仮設教室を設置する。



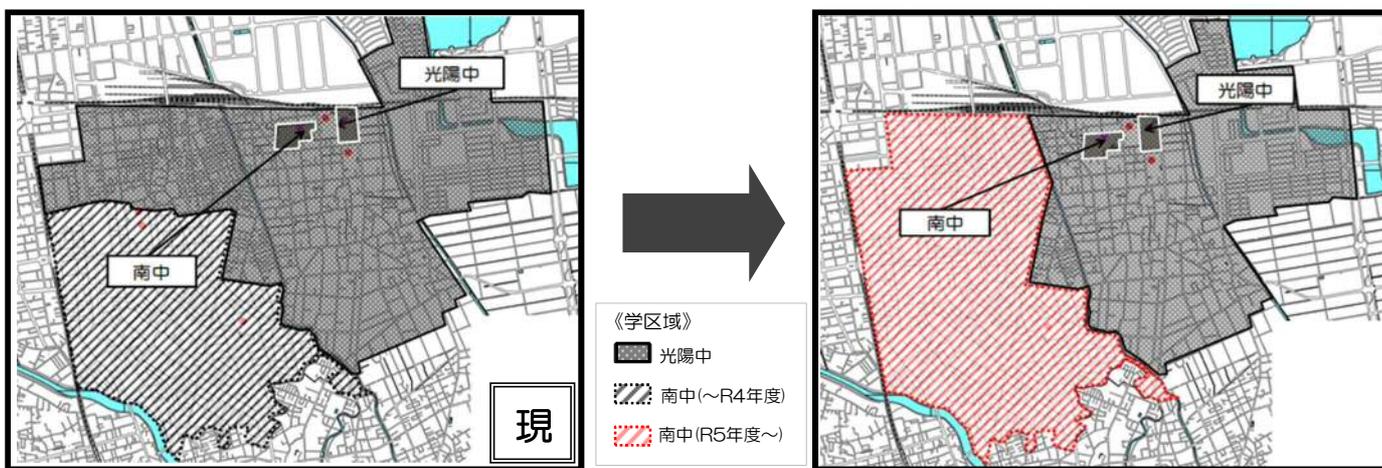
②南中敷地に川柳小高学年(5・6年生)の校舎を建設する。



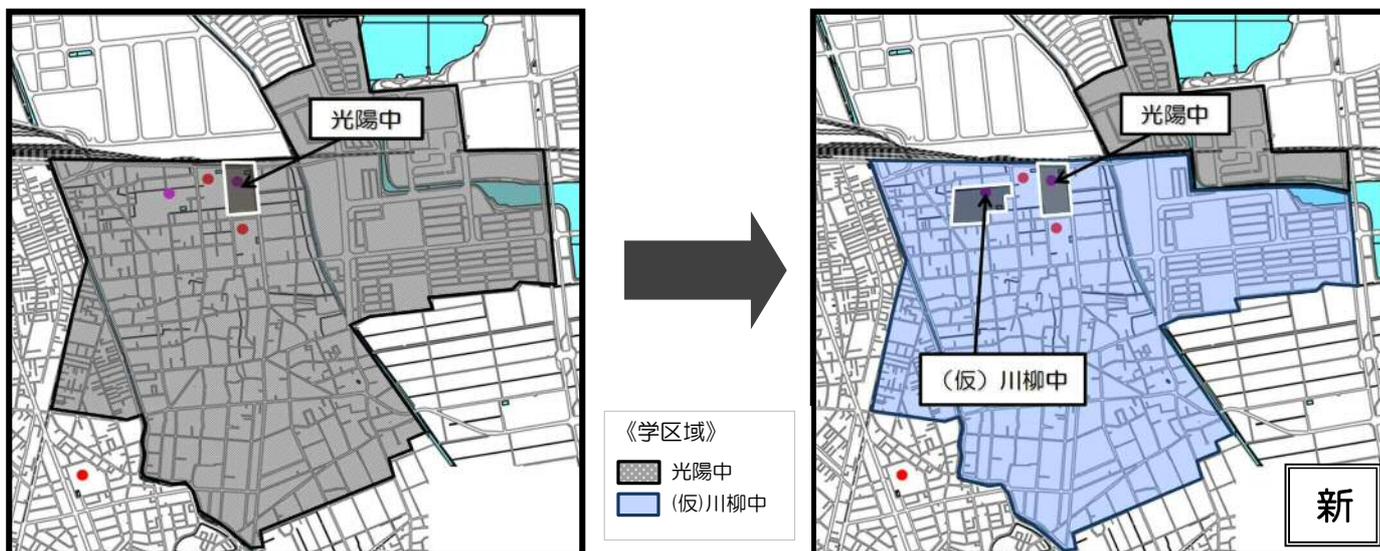
【学区改編案】

今後、越谷市小中学校学区審議会において、以下のように学区改編案について審議いただく予定です。

対象校名	内容	時期
光陽中	令和4年度に蒲生小と蒲生第二小が合併し、(仮)蒲生小となる。現在の蒲生小の進学先は光陽中であることから、現行のまま運用すると(仮)蒲生小の進学先が分割されてしまう。このことから、令和5年度から光陽中学区の一部(蒲生小卒業生)を南中学区へ改編することが望ましい。	令和5年4月1日



対象校名	内容	時期
光陽中	令和8年度に南中が空き施設となる。それにあわせて、光陽中学区の一部(川柳小卒業生である光陽中1~3年)を(仮)川柳中学区へ改編する。	令和8年4月1日



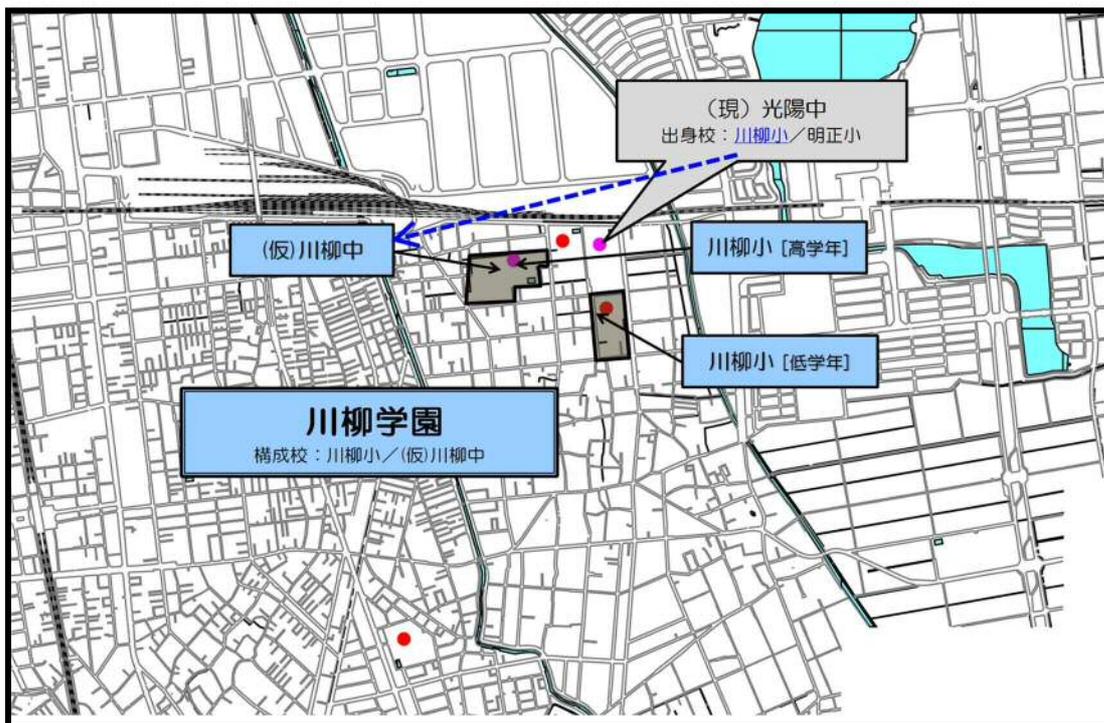
3、川柳学園構想全容

川柳学園構想は、川柳小の児童数増加に伴う学習環境の改善が大きなポイントとなります。

レイクタウンエリアにおいて、小学校新設に必要な用地の確保は難しいことから、南中敷地内に小学校高学年(5・6年生)校舎を新設することで対応します。また、新校舎が使用できるまでの期間については、仮設教室による対応を想定しています。

併せて、蒲生学園開校に伴い空き施設となる南中の校舎を活用し、新たに(仮)川柳中とすることで、令和8年度を目途に市内初の小中一貫校を設立する構想です。これにより、市内16校目の中学校が誕生します。

なお、川柳小については、現在の校舎を低学年(1～4年生)が引き続き使用し、高学年(5・6年生)は中学校敷地内に新設した校舎を使用します。



【7】 明正学園(仮称)

1、明正学園のカリキュラム

Concept(案)

* 今後、学校と連携しながら内容をさらに検討します。

SDGs^{※1}と英語で世界とつながる学校 レイクタウンで学習

- 〈目指す児童生徒〉 地域・日本を知り、世界へ発信できる児童生徒の育成
- 〈キャッチフレーズ〉 『레이크タウンで育つ レイクタウンを守る 人にやさしい레이크タウン』
- 〈特色のある教育〉 親水文化創造都市越谷레이크タウンを土台に、SDGsを軸とした環境教育や防災教育、人権教育、国際理解教育を、9年間を通す指導計画のもと実施し、世界に発信する児童生徒を育みます。
- 〈9年間を通す指導〉 1～4年生: 地域の環境・防災・人々をよく知り、地域の人とつながることを重視
5～7年生: レイクタウン地区との交流活動を組み、小中学校の円滑等つながりを重視
8・9年生: レイクタウンの防災対策や環境対策、姉妹都市との交流等社会との関わり、世界とのつながりを重視

【カリキュラム活動例】

8・9年

教科担任制^{※2} 8・9年生の地域参加の教育 【人のために考え行動する】
表現や発信を大切にする教育活動 1～4年生との交流活動

- | | |
|-----------|--|
| (環境教育) | ○『環境問題』『地球温暖化』を防ぐためにできること |
| (防災教育) | ○地域防災訓練への参加 ○これからの防災を考える |
| (人権・福祉教育) | ○人権を守ること、よりよい社会にする方策を考える
(国際交流協会、障がい者支援団体や福祉団体との連携) |
| (国際理解教育) | ○姉妹都市キャンベルタウンと英語交流 |

5～7年

5・6年生の一部教科担任制、7年生からは教科担任制 【人の思いを知る】
中学校教員の5・6年授業への一部参加 5・6・7年生児童生徒の交流活動

- | | |
|-----------|---|
| (国際理解教育) | ○姉妹都市キャンベルタウンとの交流 世界のためにできること探し
○英語教育の充実 ALT ^{※3} と交流 |
| (環境・防災教育) | ○自分たちの町레이크タウンの環境対策 地域防災学習と日本の災害学習 |
| (人権・福祉教育) | ○人権問題を考える ○福祉施設との交流 |

1～4年

学級担任制 地域を素材に基礎基本を学ぶ 【人とつながる】
具体的な活動や体験的な活動を中心に実感する学習

- | | |
|----------|---|
| (環境教育) | ○調節池見学 自然と触れ合う 地域・越谷の環境問題を知る |
| (防災教育) | ○『防災を考える』自助・共助・公助 レイクタウンの防災対策 |
| (国際理解教育) | ○姉妹都市キャンベルタウンを知る ○英会話活動 ALTと遊ぶ |
| 【土台として】 | ○「人との関わり」の深化 地域を知る調査・探検活動 親水のまちづくり
○越谷市を知る 伝統文化体験 越谷の自然 ○SDGsを知る |

【用語の説明】

※¹SDGs……………Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略。国連サミットで決定した「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための17の国際目標。

※²教科担任制……………中学校で行われている制度で、教科ごとに教える教員が変わる。小学校ではクラス担任がほぼ全教科を教える。

※³ALT……………外国語を母語とする国の出身で、小学校や中学校の英語の授業において教員の補助を行う外国語指導助手のこと。

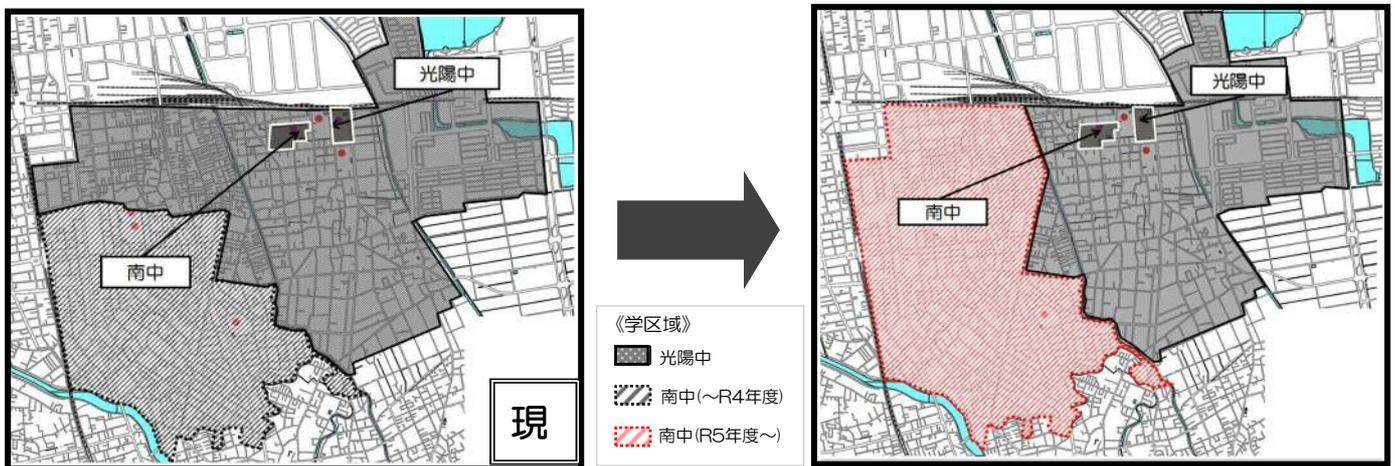
2、明正学園設立に向けた準備について

明正学園の設立に向けて、学区域の改編を検討します。

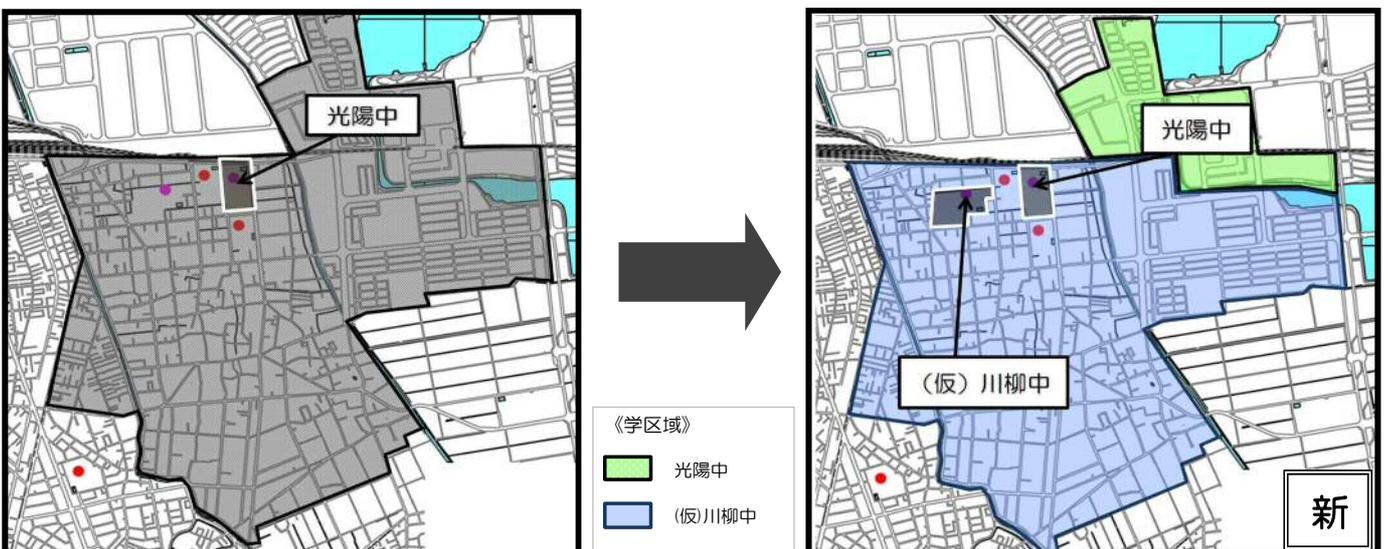
【学区改編案】

今後、越谷市小中学校学区審議会において、以下のように学区改編案について審議いただく予定です。

対象校名	内容	時期
光陽中	令和4年度に蒲生小と蒲生第二小が合併し、(仮)蒲生小となる。現在の蒲生小の進学先は光陽中であることから、現行のまま運用すると(仮)蒲生小の進学先が分割されてしまう。このことから、令和5年度から光陽中学区の一部(蒲生小卒業生)を南中学区へ改編することが望ましい。	令和5年4月1日



対象校名	内容	時期
光陽中	令和8年度に南中が空き施設となる。それにあわせて、光陽中学区の一部(川柳小卒業生である光陽中1～3年)を(仮)川柳中学区へ改編する。	令和8年4月1日



3、明正学園構想全容

これまで光陽中学区だった蒲生小卒業生は、学区改編によって令和5年度入学者から南中へ進学します。その後、令和8年度の蒲生学園及び川柳学園の開校に伴い、これまで光陽中学区だった川柳小卒業生(光陽中1～3年)は、学区改編によって令和8年度入学者から(仮)川柳中に進学します。

上記の学区改編によって、光陽中には明正小の卒業生のみが通う状態となり、校舎を新設することなく市内初の小中一貫校が設立されます。



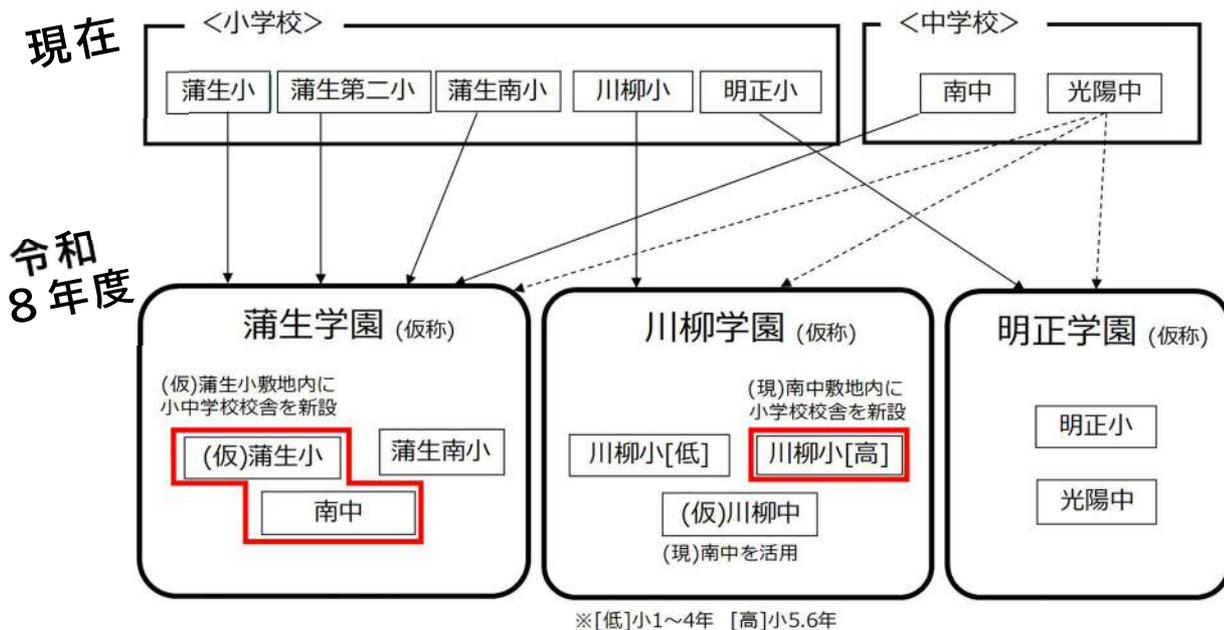
越谷市教育委員会

- 施設設備に関すること
学校管理課 TEL : 048-963-9282
- 児童数・学区に関すること
学務課 TEL : 048-963-9281
- 教育内容に関すること
指導課 TEL : 048-963-9292
- 特別支援教育・教育相談に関すること
教育センター TEL : 048-962-3894

市内初の小中一貫校設立に向け ご意見をお寄せください。

令和8年
4月開校

越谷市では、令和8年度を目途に市内初となる小中一貫校の設立を目指しています。
つきましては、資料をご覧ください、皆様からのご意見をお寄せください。



●期間 令和2年9月1日(火) ~ 令和2年9月30日(水)

●方法 下記 QR コードを読み取り、電子申請システムでご意見をお寄せください。
資料も掲載しています。(利用時の登録は不要、無記名で利用可能です)

●公表 お寄せいただいたご意見やご質問に関しては、10月中にホームページに
回答を掲載する予定です。個別の回答は致しかねますのでご了承ください。

設立に関する資料は、以下の場所にあります

- ▶ 右記 QR コード → 電子申請システム
- ▶ 越谷市ホームページ
- ▶ 地区センター窓口(蒲生・川柳・大相模地区センター)

資料閲覧・ご意見は
↓QRコードから↓



